

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こどもデイサービスセンター「ゆうゆう」(放課後等デイサービス)			公表日	8 年4 月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	運動する際、戸外であったり、体育館等の施設を利用している	一部の利用児にとって刺激の多い環境となっていることがある、落ち着ける環境作りが求められる
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		職員の配置基準に沿って配置をしています。	利用者の状態に応じる課題に対して職員の配置を考え安全に過ごせるための日々配慮しています
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	児童の体格により狭い空間ではある。日々清掃や整理整頓を行い、児童の行動範囲に支障内容に整備している	児童が行動しやすいように動線を構造化できるように配慮を行います
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	常に生活環境を意識して清掃を行い、衛生面にも十分気を配り消毒を欠かさず行っています	長く使用している物品や遊具などの老朽化もあります。備品等の買い替えの検討も行う予定です。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		支援中必要に応じて部屋を区切ったり、個室での配慮を必要とする児童がいた場合使用できるように環境の有効活用ができる	個別に使えるスペースはあるが人数や活動内容によっては十分でないことがある
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		支援前のミーティングや支援後の振り返りは時間がある限り行っている。参加できない職員への伝達も書面で行っている。都度児童発達支援管理責任者が確認を行い漏れないようにしている	情報共有の漏れ等がその日によってあるので記録ノート等の回覧でカバーしている
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		評価表は児童発達支援管理責任者が集計、まとめをした後に職員全員に周知している実際に改善できるところの話し合いも都度行えるようにしている	保護者より貴重な意見をいただきできる限り対策して改善につなげるようにしていく
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		事務所の空間の中で常に職員同士が話し合える環境を整えられているので確認できている	時間が限られているので要点をついた取り組みができるように努めていきたい
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	現状外部評価は実施できていない	法人内で実施されているものを活用する
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		職員全員が外部研修を年2回参加できるように計画している	それぞれが受けた研修の伝達がスムーズに行えていない。時間を確保することが難しい面があります
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		支援プログラムの作成。公表はできています。ホームページに掲載し誰でも見れるように準備しています	まだ工夫の余地はあると思われる今後も利用児の適正にあったプログラムの作成を検討していく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		利用児契約時保護者に聞き取りを行い状況を把握した後、利用状況での様子を確認しながら1か月以内に計画の作成を行います。利用を継続している児童は、計画のモニタリング、保護者の面談を行い見直しの機会を設けるようにしている	保護者とのやり取りが断片的になりニーズの変化や本人の気持ちを十分に汲み取れていないことがある
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		常に共通の理解をするために話し合いを行い支援の前後に確認を行っている	活発な意見のやり取りが少ないので必要な支援のためには、支援者同士の日頃からのコミュニケーションをとり同じ目的を意識できるようにする必要がある
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画において職員で確認して計画に沿った支援をするように努めています	計画を振り返り職員間で共有の時間が取れていないことがある
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		標準化されたツールを用いたアセスメントは医療機関と情報を共有している	現場からの声を汲み取れていないことがあり支援に必要な共通の認識につながっていないことがある
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		ねらいや支援内容と取り組み内容を照らし合わせて作成できるように努めている	5療育の中で必要とされている内容を表現できていないところがある
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	プログラムを担当職員が立案し案について全員で意見交換している	立案後の確認に不備があり当日バツつくことがあるので事前準備ができるようにする
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		上記同様児童の状況をアセスメントしながら個々に必要な支援につながるように日々振り返りを行い支援プログラムの確認を行っている	活動後の反省を生かし切れていない面もあるの次の活動に生かせるようにする

い	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別は机上課題、専門的支援の時間、集団は遊びやレク活動の時間としている	集団行動への参加がしづらい子への配慮が不十分な場面がある
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		支援前の予定等の確認は出勤者全員で行っている	打ち合わせは行えているが役割分担があいまいになることがあるので再度確認できるようにする
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		次の日やその週に空いた時間を利用して振り返るようにしている	職員同士で遠慮しているところがある、気づきを伝えあえるようにしていく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		ICTを活用して記録や計画を作成できるようにしている	支援の検証や改善につなげられていないところがある
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		児童発達支援管理責任者がモニタリングを行い支援提供職員からの情報を入手し計画の見直しを行うようにしている	利用児の細かな変化や保護者の意向が拾い切れていないところがある
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		地域交流以外は、日々の活動で取り入れることができている	地域交流への取り組みが不十分な面がある
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		提供する課題への工夫や自己選択できるように準備をしている。	児童の自己決定への配慮が不十分なところがある
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達支援管理責任者が参加している	会議後の情報共有が不十分な時がある
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		必要に応じて会議の開催等相談支援専門員と連携して行い、支援の共有を行っている	限られた児童にしか行っていない
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		保護者の協力のもと共有することはできている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		必要に応じて共有できるようにしている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		必要に応じて提供できるようにしている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		センターが主催する連絡会に参加して研修等を受ける機会がある	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3		交流する機会が取れていない、並行利用している児童も増えているので機会を積極的に持つようにする
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		地域の自立支援協議会に参加できている	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		連絡帳や電話でやり取りしたり、お迎え時に少しの時間でも取り組みなどをお話できるように全職員で意識している	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		県の委託を受けペアレントプログラムを実施している	令和7年度よりPDFや文章などを配布して周知を行っている
い	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明するようにしている。支援プログラムは、ホームページ等に掲載している	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		支援計画には、家族や本人の意向を反映し職員間でも共通理解を図っている	利用児本人の希望を直接聞く機会が少ないため個人の面談を持つ機会を増やしたい
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		支援計画ができたら面談等を通して丁寧に説明をするようにしている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		相談は随時児童発達支援管理責任者が行っている。年2回程度の面談も行い相談できる機会を設けている	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5		懇談会の計画を立て実施する予定だったが感染症の流行により中止したことで延期したままとなっており開催できていない
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情については、速やかに職員間で話し合い検討して保護者に丁寧に説明するよう体制を整えている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		月1回ペースで通信を紙媒体で配布している。必要に応じて手紙など配布し周知できるようにしている。ライン等の活用も行っている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		契約時に確認するようにしている 各自のケースに書類を保管している 都度確認をして扱うようにしている	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		本人や家族からの発信を受け止め安心して意志を伝えられる関係作りに努めている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	地域で出向くなどの行事の予定は組んでいるが、招待することは、感染症の問題等もあり現時点では実施できていない、地域に開かれた運営を基本方針で謳っている	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		マニュアルの策定についてはできているが家族への周知については、都度行うようにしている	想定した訓練を行っているが実際の緊急時の対応に不安が残る
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		事業継続計画（BCP）を策定し自然災害や感染症発生時にも、子どもと職員の安全確保と支援の継続が図れるように準備している	研修や訓練について実施し取り組んでいるが記録の残し方に不十分なところがある
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		てんかんなどでの急変の可能性がある児童については発作時の対応手順を事前に保護者と確認し対応体制を整えている	緊急時のマニュアルの準備や想定した訓練ができていない
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		調理などの作業時の時にアレルギーのある子がいらないか再度確認をする	契約時に確認を行うようにしている
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画に基づいて研修、訓練を実施している	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		避難訓練は月1回行い、通信で報告している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		日々の支援で起きたヒヤリハットを記録し再発防止の検討をするようにしている	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		「障害者虐待防止法」や「適切な支援と不適切な支援」テーマにした職員研修を実施し、支援の振り返りと意識の統一を図っている	虐待防止の観点からの保護者支援や家庭内の気づきに関する対応がまだ十分ではないところがある
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	原則として身体拘束は禁止である基本方針としつ、生命、身体に危険が及ぶ場合などのやむおえないケースについては、組織内で慎重に検討した上で対応方針の決定をする	契約時に確認を行い必要に応じて計画に記載するようにしている	